ディボーションノート　３０

|  |
| --- |
| ７月２７日(月曜)　 エズラ第１０章　ｱﾌﾀｰｽｸｰﾙ夏期講習(前期)　月～金　毎日9章6節からエズラはこう祈ります。「わが神よ、わたしはあなたにむかって顔を上げるのを恥じて、赤面します。われわれの不義は積って頭よりも高くなり、われわれの咎(とが)は重なって天に達したからです。」エズラが神の神殿の前で泣き伏して、この悔い改めの祈りをしている時に、民全体に変化が起こります。エズラのもとに民が集い群衆となったのです。「われわれは神にむかって罪を犯し、この地の民から異邦の女をめとりました。」彼らは神に禁じられていた異邦人との結婚を悔い改め始めたのです。イスラエルの民は唯一の神から選ばれた民であり、その純粋さを失うことは罪とされ、雑婚を禁じられていました。ルツのように素晴らしい異邦人の嫁もあり、信実な結婚は神に祝福されます。しかし打算からの雑婚は異邦の力を借りようとして、偶像信仰を蔓延させ、国を滅ぼしました。祭司やレビ人にまで広がっていた罪です。悔い改めた民は最後に何を決断したか。悔い改め、愛をもって祈るべきことが、私たちにもあります。 |
| ７月２８日(火曜)　 ネヘミヤ　第１章　ｷｯｽﾞﾌﾞﾗｳﾝ英会話　火曜教室　ネヘミヤ(神は慰めたもう)は、ペルシャ王のアルタシャスタ〈前465－424〉に仕える給仕役でした。場所は避寒地としての首都スサで、バビロンからは東に500キロ離れています。ネヘミヤのもとにユダからの人が訪れ、こう訴えます。「捕囚を免れて生き残った者は大いなる悩みと、はずかしめのうちにあり、エルサレムの城壁はくずされ、その門は火で焼かれたままであります」と。城壁がないと全く無防備で、敵に襲撃されやすく、不安定です。ネヘミヤはまず民の罪を悔い改めます。この祈りを音読してください。ネヘミヤは苦しむ民の為にエルサレムに行くことを決意します。しかし、給仕役の彼には、どうしても王の許可が必要でした。 |
| ７月２９日(水曜)　 ネヘミヤ　第２章　コワイアー男性練習はお休み　1章の出来事はキスレイの月〈11－12月〉で、2章はニサンの月〈3－4月〉ですから、ネヘミヤは数ヶ月の間、祈りつつ機会を待っていました。給仕役の自分から願い出ることができません。すると、アルタシャスタ王のほうからネヘミヤに言葉がかけられたのです。そして神の導きです。すべてが最善に決まりだします。「わたしの神がよくわたしを助けられたので、王はわたしの願いを許された。」聖書は歴史の事実の記録です。ネヘミヤによるエルサレムの城壁再建は実行に移されます。しかし妨害する者が出てくるのです。 |
| ７月３０日(木曜)　 ネヘミヤ　第３章　午前祈祷会ｽﾓｰﾙｸﾞﾙｰﾌﾟ　夜ｺﾞｽﾍﾟﾙﾅｲﾄ　城壁を築くことは、陸続きの地域では、外敵から身を守るために不可欠なものでした。当時のエルサレムは東西の幅300メートル、南北は1000メートルの細長い地形でした。各所に門があり、門を修復して安全を守る。また門と門との間の城壁を堅固にして外敵を防ぐのです。捕囚後のエルサレムの地図に、各門の再建工事担当者の名を書き込んでみましょう。 |
| ７月３１日(金曜)　 ネヘミヤ　第４章　ｷｯｽﾞﾌﾞﾗｳﾝ英会話　金曜教室　二人の妨害が始まりました。ひとりはヨルダン川の東の地域の有力者、アンモンびとトビヤ。もうひとりはエルサレムの北のサマリア州の知事サンバラテです。二人とも、エルサレムの城壁が再建されて勢力を持つことを嫌っていました。妨害は外部からと内部からと両方あり、ネヘミヤは神に祈りつつ、民の心を励まし、ひとつにして、再建工事にあたりました。主イエス・キリストの体である教会が、そこに加えられる全ての人々の一致協力によって形成されるように、この工事も「民は心をこめて働き」〈6節〉、「半数は工事、半数は武装」「片手で工事、片手に武器を持って」、チームワークで進められました。 |
| ８月１日(土曜)　 ネヘミヤ　第５章　　青年会キャンプ　1－2日　民全体で城壁再建に当たっている最中に、一部の「尊い人々およびつかさたち」は利息を取って民を苦しめていました。構造的で経済的不平等は神の御心ではありません。変革しなければなりません。ネヘミヤは利息を取ることを止めさせました。また自分自身でも総督としての12年間の手当てを受け取らないことにしました。城壁再建の工事を優先させ、このためにすべてを投入したのです。「わが神よ、わたしがこの民のためにしたすべての事を覚えて、わたしをお恵みください。」キリスト者の奉仕の報いは神から来ます。 |